

SUN

綾部の地で70年。地域のみなさんのいのちを照らす。

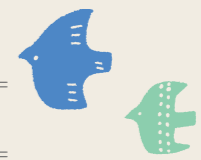
ご自由にお持ちください

173

2023.6

新任医師紹介

はじめまして



綾部の自然を満喫中!

総合診療科 奥根 百合

初めまして。和歌山生協病院総合診療科専攻医2年目の奥根百合と申します。4月から9月末まで京都協立病院で学ばせて頂くことになりました。私が医師を目指したのは小学校低学年の時に母が脳卒中で数カ月入院し、当時寂しい思いをしたのがきっかけです。3次医療を担う和歌山県立医科大学で初期研修をし、患者さんや家族が苦しんでいる姿をみて、まず患者さんが病気にならないようにするにはどうすればいいか考えるようになり、総合診療科を専攻しました。綾部市は自然豊かで花が好きな私はミツマタ、シャガ、藤など非常に満喫しています。半年間どうぞよろしくお願いたします。



サラリーマンから医師へ

リハビリテーション科 青柳 潤

4月からお世話になります青柳です。もともと東京でサラリーマンを9年ほど経験し、医師になろうと思立って滋賀の大学に編入し、37歳で医師になりました。その後京都民医連中央病院の初期研修医になり、2年間の初期研修の最後の半年を協立病院でお世話になったのが、5年ほど前になります。その後、精神科1年、リハビリ科4年の実務経験を経て、この度4月より5年ぶりにこちらでお世話になることになりドキドキしています。趣味はランニングとレコード鑑賞、たまに映画館にも行ったりします。今年は頑張って福知山マラソンにも出たいなあと思っていますので、宜しくお願いします!あ、もちろんお仕事もフルスイングで頑張ります!



あきらめない、断らない、リハビリで地域を支える

YAKU KENJI



リハビリテーション課 課長

夜久 賢治

訓練だけでなく、起床時から就寝時までの間、食事や着替え、歯磨きや整容、排せつなど日常的な動作も含めた生活そのものをリハビリテーションととらえたサポートを行います。他にも、必要に応じて安心してご自宅に帰れるよう、退院前に患者さんと一緒にご自宅へ伺い、屋内外の改修・補助器具導入の調査や、実際

回復期リハビリテーションへの転換から10年——
いま×これから

京都協立病院では2014年6月に3階病棟を療養病棟から回復期リハビリテーション病棟に転換し、来年で10年を迎えます。当院の取り組みや今後の展望について、リハビリテーション課の夜久賢治課長、森田仁美病棟看護師長がお話します。

MORITA HITOMI



回復期リハビリテーション病棟 看護師長

森田 仁美

中丹地域で果たしてきた
当院の役割と取り組み

森田 回復期リハビリテーション病棟では、急性期治療を終えた、脳卒中や脊髄損傷、大腿骨頸部骨折、肺炎後の廃用症候群などの患者さんに対して、自宅や社会に戻ってからの生活を少しでも元に近い状態に近づけるためのリハビリテーションを専門に行っています。入院期間は最大180日(疾患・状態により異なる)、リハビリテーションは1日最大3時間行い、社会・在宅復帰をめざします。訓練だけでなく、起床時から就寝時までの間、食事や着替え、歯磨きや整容、排せつなど日常的な動作も含めた生活そのものをリハビリテーションととらえたサポートを行います。

夜久 当院では京都府中丹地域を中心に毎年200人前後の患者さんがご入院されます。年齢層は70〜80歳代の方が多数を占めますが、働きざかりの若年の方もおられます。入院してこられる患者さんの背景は様々です。病歴だけでなく、患者さんがどのような歴史、社会背景の中で生きてこられたか、どんな労働条件のもとで病気になられたのか、ということにも焦点をあてます。当院では多職種で定期的に学習会を開催していますが、ICF(国際生活機能分類)という指標を活用し、生活機能と背景因子から患者さんにより深く理解できるよう努めています。

中面につづく



音楽とおしゃべりで
楽しく学習

第15回 ほっこりカフェ開催
3月29日

当院のある綾部市高津町の高津公会堂にて、3月29日にほっこりカフェ(認知症カフェ)を開催しました。気軽にしゃべりができ、なんでも気になったことを相談して頂ける場所として、病院スタッフや地域のボランティアさんと一緒に、カフェを開催しています。今回は、日本ミュージックケアの初級コースを受講されたフレッシュなボランティアの方による音楽やリズムに乗って楽しい時間を過ごすことが出来ました。



病院理念

1. 安心安全の医療・福祉を推進します
私たちは、地域連携を大切にして、総合的に医療・福祉を提供し、地域の患者様の健康に責任を持ちます。私たちは、情報を公開・共有し、安心安全の医療・福祉を推進します。
2. 人権尊重・無差別平等の医療・福祉を提供します
私たちは、いつでも、だれもが安心して必要なサービスが受けられるよう、人権を尊重し、無差別平等の医療・福祉を提供します。
3. 平和を守り、社会保障を発展させます
私たちは、医療従事者の良心にかけて平和を守り、権利としての社会保障制度を発展させます。私たちは、患者様や地域の皆様、諸団体と共に、人間の尊厳が大切にされるまちづくり運動をすすめます。

公益社団法人 京都保健会 京都協立病院

〒623-0045
京都府綾部市高津町三反田1番地
TEL 0773-42-0440(代表)
0773-42-0025(小児科直通)
FAX 0773-42-9459(代表)



発行：京都協立病院広報委員会 <https://www.kyoto-kyoritsu.org/>



ISO 9001 認証取得



ジェンダー
フレンドリー宣言

- だれもが安心してかかれる医療をめざして
- 当院の「ジェンダーフレンドリー宣言」については3面へ▶▶▶

紙面を
リニューアル
しました

今号より病院報の名前を「きょうりつSUN」に変更し、デザインもリニューアルいたしました。綾部の地で開院して70年、ここ高津町へ移転して20年。日頃から地域のみなさまに親しんで呼んでいた「きょうりつさん」の愛称を大切に、SUN=いのちを照らす太陽のような存在となれるよう、これからも努力してまいります。

だれもが安心してかかれる
病院をめざして

私たちの病院は、民医連綱領にある「人権を尊重し、共同の営みとしての医療と介護・福祉をすすめる、人々のいのちと健康を守ります」の立場にたち、性的マイノリティーの方々の人権を守り、誰にも侵害されない居場所をつくりたいと考えています。診察や設備のあり方などに、これまでの“当たり前”を一つずつ見直していきま。取り組みの一部をご紹介します。

お気づきでしたか？



1階と2階の東側トイレに、「だれでもトイレ」表示を追加しています。

当院のジェンダーフレンドリー宣言はこちら



4回目 院内LGBT学習会を開催

1/31

京都協立病院では、2020年にジェンダーフレンドリー病院を目指すという目標を掲げ2年以上継続した取り組みを行ってきました。対話を通じて性の多様性(SOGI)についての認識を深めようと、当事者お二人を招き、オンラインで学習会を開催しました。性にも生き方にも様々なグラデーションがある。私たちは、これをあたりまえの事として肯定的に捉えることができる医療者として、支援し活動を展開していきたいと思ひます。



自宅退院に結びつくこともあります。施設に退院されることになっても、そこで患者さんが過ごしやすいうえ姿勢や落ち着かれるかわり方をお伝えすることも重要な役割です。

私たちが大事にしていることは、ひとり一人の個性を大切に、退院される自宅や施設でその人らしく生活ができるよう支え関わることです。回復が難しい方や自宅に退院できない方でも、できるだけお受けするようにしています。病棟運営や経営面で厳しい時も現実にはありますが、当院が地域から求められている立ち位置はここだと感じています。

HOSPITAL



ART

ただけるよう発信にも力を入れていきたいですね。

当院のホームページブログを定期的に更新していますが、自主的に取り組みを進めてくれるスタッフがが増えて心強く感じています。患者さんの療養環境を良くしようとした「ホスピタルアート」もその一つです。今後はSNSなども活用し、当院のリハビリテーションをもっと知っていただけるよう発信も力を入れていきたいですね。



実践しつづける
スタッフの力が強み

森田 患者さんのご希望に沿うのはもちろんですが、特に大切にしていることは患者さんやご家族の退院後の不安に丁寧寄り添うことです。また自宅に退院されたとしても安全・安心に生活できるか、あらゆる事を想定した支援が必要になります。何もかも整えられた病院ではできた動作が、自宅や地域で同様に行けるとは限りません。患者さんが病前に生活されていた環境から何が課題になるかをイメージして患者さんやスタッフ、地域の医療機関や事業所と共有することがとても大切です。私たちはこういった双方のコミュニケーションの積み重ねを大切にしたいと考えています。良い点も悪い点も率直に振り返り、リハビリテーションやケアの質を上げていくことが患者さんの満足につながると考えているからです。

患者さんひとり一人に寄り添い、実践を積み重ねる

数字に表れない個別性をみる

夜久 近年は診療報酬の改訂により、どれだけ短い入院期間で、どれくらい大きく回復したか、自宅に退院した割合がどの程度かなどの結果（アウトカム）が重要視されるようになりました。その数値が病院の経営に直結する仕組みですが、たとえ身体機能の回復がわずかでも、自宅の環境を整えたり介助方法をお伝えしたりすることで

常識をアップデート

安心して療養いただける病院へ

森田 当院の2023年度方針の一つに、「認知症や多様な性(SOGI)にやさしい病院づくり」があります。ジェンダーやLGBTQといった多様性を認め、どのような方が入院されても安心して療養できる環境をつくりたいと考えています。そのため、私たちの「常識」を常にアップデートしていくことが欠かせません。特に認知症対応には力を入れて学習を進めてきています。患者さんが混乱されている時は必ず何らかの因子があります。それを受け流さず、まず立ち止まって「なぜ？」と考える。言葉に現れないことも見逃さず、想像する看護やケアを実践していきたいと思ひます。

夜久 回復期リハビリテーション病棟に転換した当時から比べるとスタッフ数は倍になりました。治療法も年々進化するため、研修に出て学び共有することを日常的に行っています。

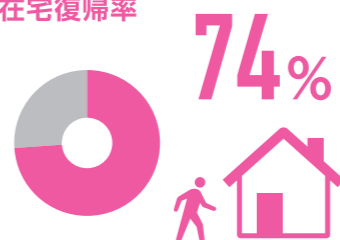
2018年6月から綾部市在住の方に限り訪問リハビリテーションを、2022年6月から外来リハビリテーションを開始しました。退院で終了ではなく、入院中のリハビリテーションがご自宅で活かされているか、新たな課題が出てきていないかといったフォローアップが可能になりました。また在宅のイメージがつきにくい若いスタッフの教育の場にもなっています。

回復期リハビリテーション病棟

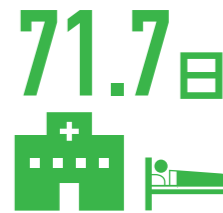
実績指数



在宅復帰率



平均在院日数



数字でみる

KYO
きょうりつ
RITSU